

通殿川排水機場 ～建物入口に水門があるのはなぜ？～

大雨や台風などの洪水時に通殿川の水を荒川へ排水する施設です。



入口の水門を閉じた状態



入口の水門（資材搬入口）用



入口の水門（玄関用）



通殿川排水機場



通殿川排水機場 空撮



ポンプ室フロア

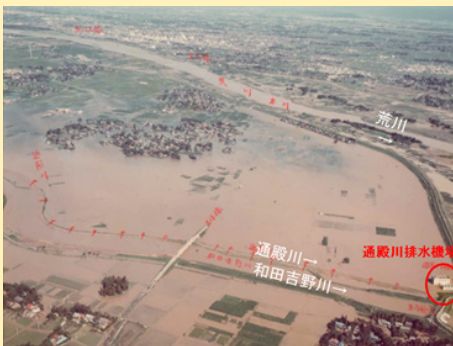
通殿川排水機場

和田吉野川の外水の影響を受け、湛水被害が絶えない通殿（つうどの）川流域の治水施設として1973（昭和48）年に完成しました。この時の工事で、ポンプ規模5立方メートル／秒×2台が設置され、1999（平成11）年に1台を増設しました。

通殿川排水機場は、和田吉野川からの逆流を防ぎ、甚大な被害を被っていた通殿川下流域に広がる農耕地の湛水被害を軽減しています。

▶ 台風による浸水被害

1982（昭和57）年9月12日に台風18号が静岡県御前崎へ上陸し、関東地方から東北地方を縦断しました。その影響で増水した和田吉野川の水が通殿川へ溢れ出し、通殿川排水機場が排水できる水の量を上回りました。そのため、通殿川の水も増水して溢れだし、通殿川排水機場の建物内にも水が浸水しました。建物内への浸水により排水ポンプを運転するためのエンジンや電子機器が故障してしまい、排水機場が運転不能となりました。



昭和57年9月12日の台風被害

▶ 通殿川排水機場を稼働させ浸水面積を低減（2007（平成19）年9月洪水）

通殿川排水機場は、和田吉野川からの逆流を防ぎ、甚大な被害を被っていた通殿川流域の治水施設として1973（昭和48）年に完成しました。この時の工事で、ポンプ規模5立方メートル/秒×2台が設置され、1999（平成11）年に1台を増設しました。

2007（平成19）年9月台風9号の出水時には、通殿川排水機場を稼働させることにより約150haの浸水面積を低減しました。

【通殿川排水機場諸元】

- 完成年：昭和48年（排水機場完成：2台）
平成11年（ポンプ増設：1台）
- 形式：立軸傾斜式ポンプ
- 総排水量：15m³/s（主ポンプ3台）
- 排出量：7.5m³/s
- 口径：1500mm

荒川69.6k付近 平成19年9月7日撮影



H19年9月 台風9号の効果



コラム 入口の水門はなぜ必要になったの？

通殿川排水機場は台風などの洪水時に、通殿川の水を和田吉野川を経て荒川へ排水する施設です。建物の入口には、大きな水門が設置されています。これは過去に通殿川排水機場が浸水被害を受けた経験から設置されました。排水機場の建物内が浸水すると、排水ポンプを動かすためのエンジンや電子機器が水没し故障してしまい、排水機場が運転不能となる事態が発生します。排水機場が運転できなくなると川の水がさらに増水し、周辺地域の浸水被害が拡大する事につながります。

過去の浸水被害を教訓とし、通殿川排水機場の浸水対策として建物入口に防水水門を設置し、運転不能とにならない対策が行われました。



入口の水門使用状況
（平成11年8月洪水）

アクセス

通殿川排水機場

交通：ＪＲ高崎線「熊谷駅」下車、ゆうゆうバス（ひまわり号）「太陽の園入口」下車、徒歩約10分

住所：埼玉県熊谷市津田地先

※一般の方の立ち入りはできません。見学については
荒川上流河川事務所にお問い合わせください。



荒川上流河川事務所100年の
詳しい情報はこちら→

